

「ナルドの香油を受けられた主」

主イエスは十字架に架けられる6日前、エルサレムの近郊のベタニヤ村に着かれた。村を上げて主イエス一行を歓待したが、マルタ・マリヤ・ラザロの3姉弟の喜びはひとしおである。その時主イエスのために、マリヤが選んだ捧げ物がナルドの香油であった。

香油は当時の葬儀の必需品であり、特に香り高いナルド産の香油は高価で売買されていた。銀行のない時代、女性は小さい時からお金を貯めては少しずつ香油を買い壺に溜め、結婚が決まるとその費用に香油を売って当てるか、持参金代わりにした。しかしこの時しかないと思ったマリヤは、大切なナルドの香油を惜しげもなく主に注ぎ、献げたのである。

ある女性は、足の皮膚の色が他の人より少し赤いということで、幼いときから人知れず悩んでいた。彼女がキリストの救いに与ったとき、そのコンプレックスからも解放され自由にされたのである。彼女は主の恵みに応えたいと思っていた。ちょうどその頃、教会に新会堂建築の話が持ち上がった。彼女は結婚資金のために貯金していた高額のお金全部をそのためにお献げしたのである。

周りの者たちは驚き反対したが、新会堂で最初に結婚式を挙げたクリスチャンカップルは彼女たちだった。手作りの結婚式は主の恵みに満ちあふれていた。

[聖書の学び]

女性にとって髪は自分自身というもので、マリヤは香油だけでなく、主に自分自身をささげたのである。

I、主イエスに献げた心

1、ベタニヤのマリヤは、主をどのように思っていたのでしょうか？

(1)主イエスは神ご自身であると思った。

① 主が語られた言葉は実現し、いつもその通りになる。(ヨハネ 11:25)

② 姉弟ラザロを復活させて下さった (ヨハネ 11:44)

(2)主イエスは救いの業を行うため、エルサレムに来られた

① 主イエスは殺されると言われていた。(ルカ 18:32～33)

② ユダヤ人指導者たちとの間に、険悪なムードが漂っている。(ヨハネ 11:54)

2、弟子たちは、主をどのように思っていたのでしょうか？

① この香油に対する言葉で分かること… もったいないと思った。(ヨハネ 12:5)

もし、神であり救い主であると思っていたら、その方に献げる物を惜しいと思わないはず。

- ②特に怒ったイスカリオテのユダ… 金入れを与っていた彼は、300 デナリも自分のものにしていた。(ヨハネ 12:6)

Ⅱ、主イエスの葬りのための香油

1、主イエスにとって注がれた香油は、どのような意味がありますか。

- ①ヨハネ 12:7 を読みましょう。主イエスはマリヤが香油を献げた事について、何と言われましたか？

- ②「わたしはいつも一緒にいるわけではない」とは、どのような意味でしょうか？

2、ルカ 18:34 を読みましょう。

目が覆われて十字架について少しも分からない弟子たちの中で、マリヤがこれから起きることに気づいていたのはなぜでしょうか？

- ①主イエスの足下に座り、いつもみことばに聞き入っていた。(ルカ 10:39)

- ②神様が油注ぎを必要とされた。

3、マリヤがナルドの香油を献げることはマルタやラザロは知っていたのでしょうか？ …想像してみましょう。

Ⅲ、神の計画であるナルドの香油

1、香油は油注がれたキリストが、主イエスであることを表すために用いられた。(祭司・預言者・王は任命されるためには油注ぎが重要だった)

- ①主イエスがバプテスマのヨハネから洗礼を受けられたとき、聖霊が鳩のように下った。それが神からの霊的な油注ぎである。(ヨハネ 1:31～34)

- ②救いの計画十字架を遂行するため、具体的にナルドの香油により油注がれた。

* **ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。